気遣い合える社会を

熊本県人権子ども集会

県人権子ども集会

熊本市のパークドーム熊本で10月12日、「部落差別をはじめあらゆる差別をなくす熊本県人権子ども集会」が開催され、県内の小・中・高校生と関係者約8、000人が参加しました。

この集会は、県教育委員会主催で毎年開かれており今年で17回目。中・高校生の子ども実行委員会を中心に開催されました。

子ども実行委員長が「水俣病について学習し、けっして自分に関係ない問題ではないことを学びました。水俣病やいろいろな人権問題の解消について自分にできることから行動を起こしていきましょう」と呼びかけられました。

体験・活動報告

○菊陽北小学校

差別を受けながらも差別に負けずに生きて来られた地域の人の話を聞いて、差別をなくしていかなければならない、差別はいけないということを学んだ。

○佐敷中学校

地域のボランティアの人や特別支援学校の生徒との交流を通して、人を思いやる心を学んだ。

○高森高校

中学時代に部落差別をテーマに演じた劇について発表。「差別をきちんと知り、自分のこととして考えることが大切」と訴えた。

子ども実行委員会からのアピール文が採択

全体活動では、手話を交えて「世界に一つだけの花」（作詞・作曲：槇原敬之）を合唱。会場全体がひとつになりました。

その後、子ども実行委員会がアピール文を読み上げました。

「自分の気持ちを伝えあい、差別やいじめをなくすために、行動する一歩を、今、ここから踏み出しましょう」

参加者の拍手とともに採択され、参加者全員の誓いとなりました。

児童・生徒を主体とした集会活動を通して、すべての人々の人権意識を高め、一人一人の人権が尊重される社会の実現を目指すため、わたしたちにできることから行動を起こさなければならないと強く感じた1日でした。

益城町教育委員会

ふるさとの地名漫歩

歴史の変遷と地名 364

飯田山常楽寺㉔

寺社の創建縁起には何らかの神秘性が伴います。1は「早鷹伝説」、これは鷹が出現して奇跡を現わしその場所を聖地として寺社が創建されるというものです。2が「童子出現譚（たん）」で、これは童子が現れて奇瑞を見せ神意を告げるものです。3に「影向石（ようごうせき）伝承」がありますが、これは神仏がその巨石のうえに姿を現し神意を託宣するという信仰です。県内各地にはこの伝承を持つ寺社が幾つもありますが、益城町では津森神宮は1・2・3の複合伝承を持ち、広崎の神楽社は1・3の伝承があります。健軍社は2・3です。木山宮は江戸時代の火災により古文書が焼失し伝承不明です。

この3種の縁起はともに幽玄な神仏の世界で人知の及ばぬものですが、常楽寺の日羅上人伝承は実在の人物への信仰なので、実際の常楽寺開基は12世紀で、延暦寺の僧眞俊と推定されています。眞俊は「本朝高僧傳（しゃもん）」に「肥後飯田山沙門眞俊傳―相俊」として名を挙げられる程の名僧で、鎮西の人で幼少から比叡山で般若坊と称して忠尋にまなび、のちに高野山に入り僧皇慶に就く。顕教、密教の二宗の奥義を極め、弟子の相俊を育て常楽寺では俊芿（しゅんじょう）を教えた高徳の僧です。

俊芿には不思議な出生譚があります。仁安元年（1166）肥後国飽田（あきた）郡甘木（あまぎ）庄（現御船町甘木地域益城町小池一帯の荘園）で藤原氏を母として生まれますが、母はどうしても父の名を告げなかったので父の名は不明で、生まれてすぐ母は樹の下に捨てます。そして三日目に姉が案じて見に行くと鳥獣の害も受けず無事にいるので、奇瑞であるとして救い上げ母に帰して育てます。

益城町文化財を訪ねる会
会長　松野國策

広崎神楽社の境内にある影向石